

# 日本の「AIロボティクス知財戦略」：多層型権利設計で世界をリードする

## 現状評価と2040年への目標



### 2040年に国内市場20兆円

世界市場の3割超のシェア獲得、2027年国産基盤モデルβ版公開へ



知財は未統合、  
現場ルール未定



産業用ロボット：強  
AI関連特許量：中国突出  
標準化・SEP：弱い

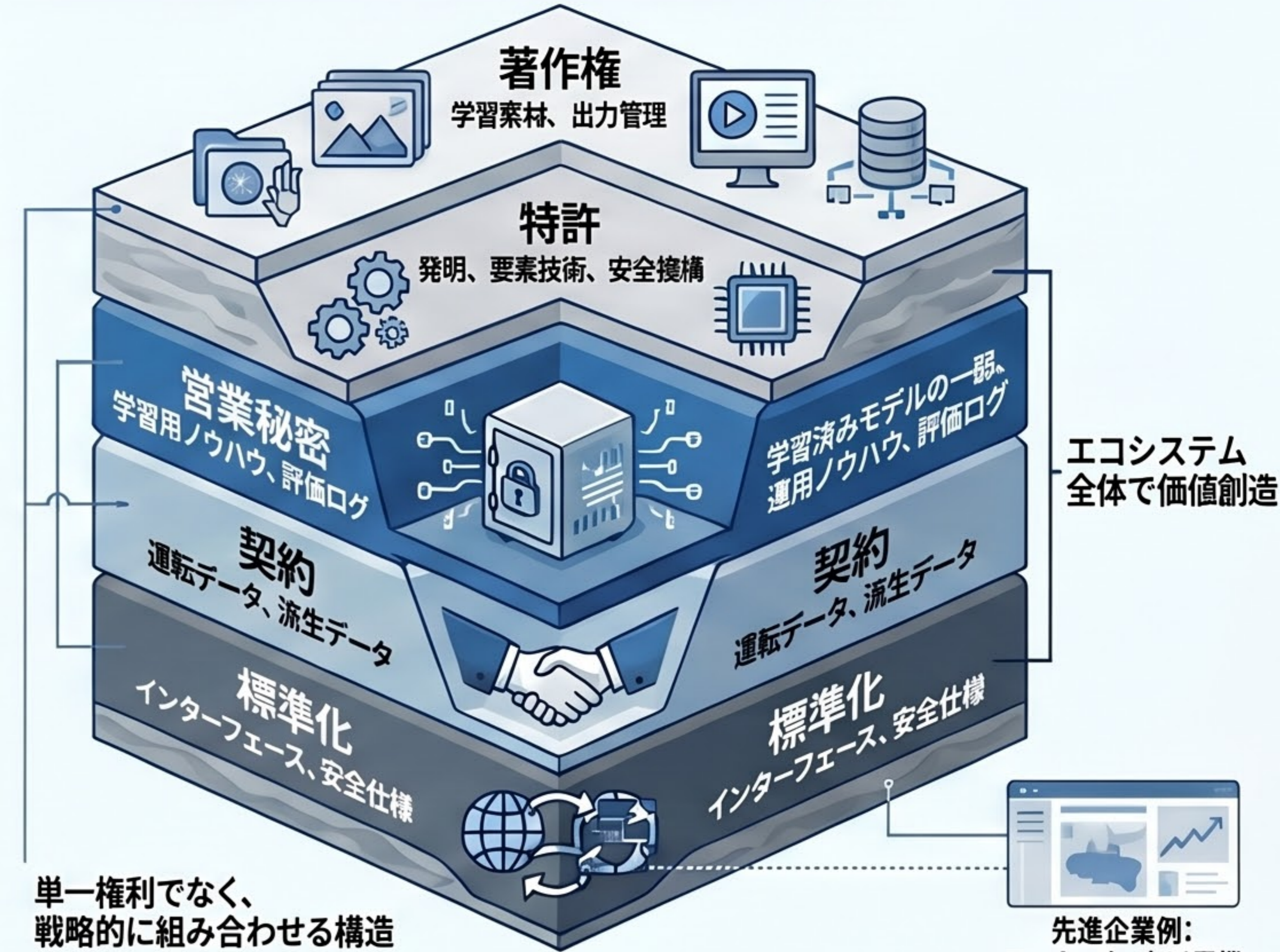


統合力・運用力

## 浮き彫りになった5つの主要課題

<p><b>特許偏蓄によるノウハウ散逸</b></p> <p>運用ノウハウ、学習資産が営業秘密として管理されず散逸</p>	<p><b>データ権利の不明確さ</b></p> <p>現場データ・モデル帰属ルール弱、データ循環停滞</p>	<p><b>著作権統治の脆弱性</b></p> <p>訓練素材・出力の市場代替評価不十分、誹争リスク</p>	<p><b>標準化・SEP戦略の不足</b></p> <p>インターフェース・安全仕様国際標準化でプラットフォーム支配リスク</p>	<p><b>スタートアップ・中小企業負担過大</b></p> <p>出属費用、秘密管理、標準参加コスト重く、PoC止まり</p>
---	---	--	--	--

## 解決策：知財の「多層型権利設計」



## 実施ロードマップと優先順位



2040年目標